

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 72.2%, 県 66.8%)

対県比 108%

学力定着実態調査 本年度正答率

本校 76.1%  
全国 71.9%

対全国比 106%

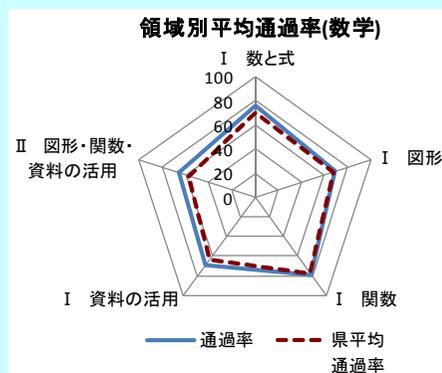
本年度の結果について

「基礎・基本」定着状況調査  
タイプII (活用問題) について、全体的に正答率が低い。

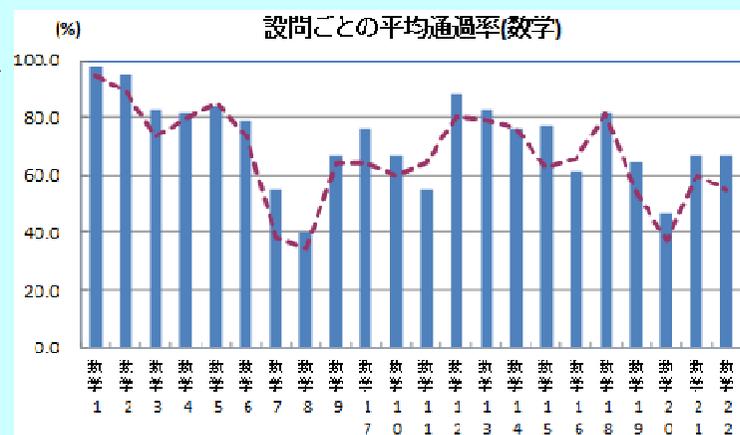
全国学力・学習状況調査

A問題, B問題ともに正答率は全国平均, 県平均を上まわっているが, A問題, B問題ともに「関数領域」における正答率は低く, 課題がある。

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



全国学力・学習状況調査 本年度正答率

A問題

本校 67.8%  
全国 62.2%  
県 62.1%

B問題

本校 47.2%  
全国 44.1%  
県 44.8%

来年度(全国学力学習状況調査)の目標値

対全国比 110%

重点課題

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】(通過率) (54.7%)

問5(1)「球の体積」球の体積を円柱の体積の割合で表すことができていない。

【課題2】(通過率) (61.3%)

問7(2)「相対度数の意味」相対度数の意味がわかっていない。

全国学力・学習状況調査

【課題1】(正答率) (36.2%)

反比例を表した事象を選ぶ問題ができていない。

【課題2】(正答率) (20.0%)

事象を考察し, グラフの傾きが表すものを選ぶ問題ができていない。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】目標値(70%) 実施後数値(%)

円錐, 球, 円柱の体積の関係をつかませ, その関係の表し方を比だけでなく, 分数でも表せるように指導する。

【課題2】目標値(70%) 実施後数値(%)

相対度数を利用した活用の課題をより多く与えることで, 相対度数の意味を理解させる。

全国学力・学習状況調査

【課題1】目標値(60%) 実施後数値(%)

反比例となる具体的な事象を扱うさいに, その特徴を対応表やグラフ, 関係式で押さえていく。

【課題2】目標値(40%) 実施後数値(%)

1次関数におけるグラフの傾きと変化の割合について考えさせ, 事象において変化の割合がもつ意味を考えさせる。

※今後の改善計画については別紙